

328. 角膜上皮基底膜変性症

三田村さやか 江口 洋

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・
眼科学分野

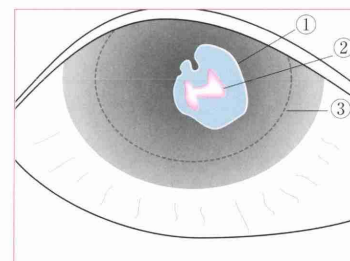
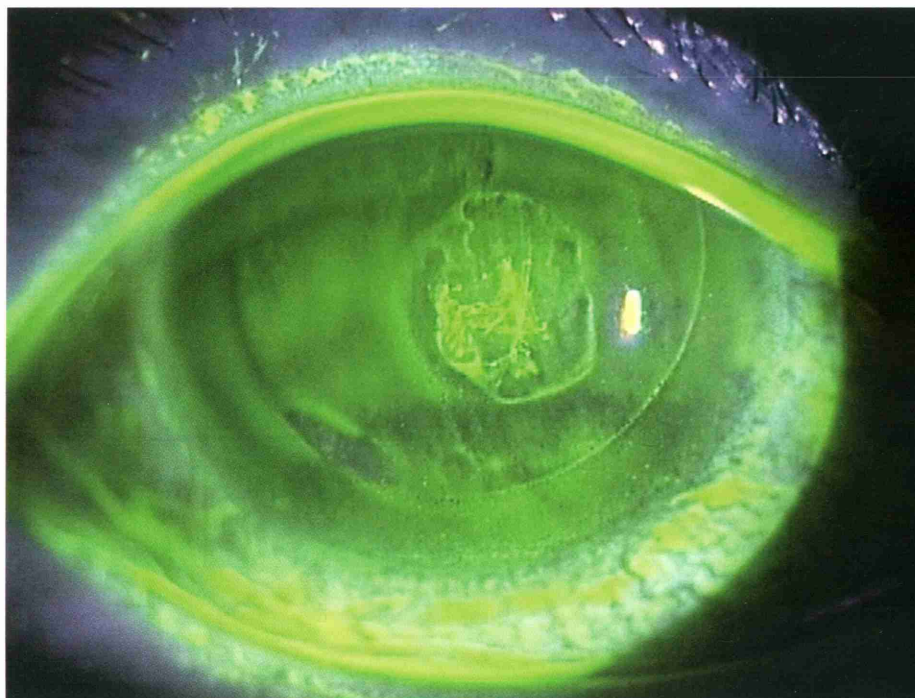


図2 図1のシェーマ

- ①：上皮接着不良域.
- ②：角膜びらん.
- ③：フラップのライン.

図1 角膜上皮基底膜変性症による LAISK 後の再発性角膜びらん (51 歳, 女性)
LASIK 後に植物の葉で眼を突いたことが契機となり, 再発性角膜びらんを発症. 中央に角膜
びらんと角膜上皮接着不良領域を認める. 当初は感染性角膜潰瘍として治療されていた.

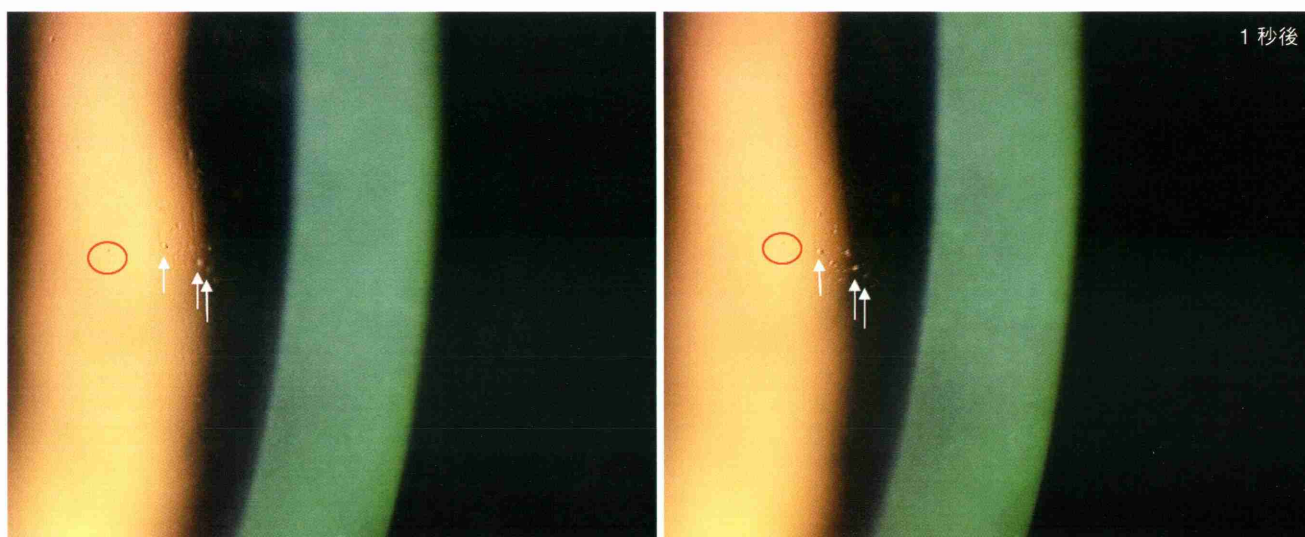


図3 微小嚢胞

本症例での無症候時に認められた微小嚢胞. 一見すると涙液中の debris のようにみえるが, 1 秒間隔で撮影した写真にて, debris (赤丸) は移動しているが, 微小嚢胞 (矢印) は同じ位置であることがわかる.

角膜上皮基底膜変性症 (epithelial basement membrane dystrophy : EBMD) は1964年に初めて報告した Cogan の名を取って Cogan microcystic dystrophy とよばれているが、細隙灯顕微鏡で特徴的な上皮所見を示し、地図状の上皮混濁 (=map) や、上皮内の微小嚢胞 (=dot)、上皮の指紋状の皺襞 (=fingerprint) がみられるため map-dot-fingerprint dystrophy とよばれている。病理組織学的には基底膜の重層化、基底膜の上皮層内への侵入や細胞核や細胞質の遺残物を含む上皮層内の嚢胞が認められ、未発達なヘミデスモゾーム、anchoring fibrils の欠損により上皮の Bowman 膜への接着が弱くなっている¹⁾。よって些細な外傷が契機となって容易に再発性角膜びらんとなる。実際、再発性角膜びらんの原因のなかで EBMD が約 30% を占めるともいわれており、角膜ジストロフィのなかでは頻度が高い疾患である。しかし多くが見逃されていると考えられ、わが国での EBMD の発生頻度は不明である。

近年では EBMD があると laser *in situ* keratomileusis (LASIK) 術中・術後のさまざまな合併症のリスクが増えることが報告されている²⁾。マイクロセラトームによるフラップ作製時に上皮欠損や上皮の偏位を生じた場合、EBMD を積極的に疑う必要がある。術後早期ではフラップの皺襞や、epithelial ingrowth が、1 カ月以降の晩期では diffuse lamellar keratitis、フラップの融解などの合併症が比較的高率に生じる。無症候性の

EBMD が LASIK を機に症候性になるとの報告もある。よって典型的かつ症候性の EBMD に対する LASIK は推奨されない。無症候性 EBMD では注意深く LASIK を施行するか、もしくは photorefractive keratectomy (PRK) を考慮すべきである。したがって屈折矯正手術前検査時は、注意深く細隙灯顕微鏡検査を行って、EBMD を疑う所見の有無を細隙灯顕微鏡で確認する必要がある。

EBMD の治療は、角膜上皮の保護を目的としたヒアルロン酸ナトリウムや人工涙液の点眼、ビタミン剤や抗菌薬の眼軟膏の点入を基本とし、不十分な場合は自己血清点眼や治療用コンタクトレンズを適宜使用する。これらの保存的治療でも再発をくり返す症例には角膜実質穿刺、stromal puncture や phototherapeutic keratectomy (PTK) が有効とされている³⁾。

文 献

- 1) Rodrigues MM : Disorders of the corneal epithelium : a clinicopathologic study of dot, geographic, and fingerprint patterns. *Arch Ophthalmol* **92** : 475-482, 1974
- 2) Dastgheib KA : Sloughing of corneal epithelium and wound healing complications associated with laser in situ keratomileusis in patients with epithelial basement membrane dystrophy. *Am J Ophthalmol* **130** : 297-303, 2000
- 3) Johan J : Clinical outcome and recurrence of epithelial basement membrane dystrophy after phototherapeutic keratectomy. *Ophthalmology* **118** : 515-522, 2011



広範囲抗菌点眼剤

処方せん医薬品^{注)}

ガチフロ[®]点眼液 0.3%
GATIFLO[®] OPHTHALMIC SOLUTION 0.3%

ガチフロキサシン点眼液

略号：GFLX

注)注意—医師等の処方せんにより使用すること。

薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

製造販売元 千寿製薬株式会社
 大阪市中央区平野町二丁目5番8号

販 売 武田薬品工業株式会社
 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

提 携 杏林製薬株式会社
 東京都千代田区神田駿河台2丁目5番地

資料請求先：千寿製薬(株)カスタマーサポート室

2011年1月作成